

第 17 回クラシックを楽しむ会

2014 年 12 月 28 日 (日) 18:00~21:30

喜歌劇「こうもり」(ヨハン・シュトラウス 2 世)

会場等： コヴェント・ガーデン王立歌劇場 (ロンドン)
1983 年 12 月 31 日

楽団等： コヴェント・ガーデン王立歌劇場管弦楽団
同合唱団

指揮： プラシド・ドミンゴ

演出： レオポルト・リントベルク

出演： ヘルマン・プライ	アイゼンシュタイン (裕福な銀行家)
キリ・テ・カナワ	ロザリンデ (アイゼンシュタイン夫人)
マイケル・ラングドン	フランク (刑務所長)
ベンジャミン・ラクソン	ファルケ博士 (公証人、「こうもり博士」)
ドリス・ゾッフエル	オルロフスキー公爵 (ロシアの若い大貴族)
デニス・オニール	アルフレート (ロザリンデの元恋人)
ヒルデガルド・ハイヒェレ	アデーレ (ロザリンデの小間使い)
その他、シャルル・アズナヴール (ガラ・パフォーマンスのゲスト)	



アイゼンシュタイン、アデーレ、オルロフスキー

あらすじ

主人公はウィーンの裕福な銀行家アイゼンシュタイン。彼の悪戯で恥をかかされた友人ファルケ博士が、彼に仕返しをするという筋。内容は決してシビアな復讐劇ではなく、あくまで”お気楽”なドタバタ喜劇。

コヴェント・ガーデン王立歌劇場について

英国を代表する名門歌劇場で、正式名称はロイヤル・オペラ・ハウス (ROH)。コヴェント・ガーデンの名称はロンドン中心部の地区名で中世にウェストミンスター大修道院の菜園があったことに由来。その一角にできた初代の歌劇場ではヘンデルのオペラが毎シーズン上演された。現在の歌劇場は 1858 年に再建された 3 代目。1990 年代にファサード、玄関および観客席以外を大改装、倍に拡大。現在ヨーロッパで最も設備の整った歌劇場である。

なお、ヒチコックはコヴェント・ガーデン生まれ。映画「マイ・フェア・レディ」最初の場面は ROH 前。



左はシャンパン・バーのあるホール、右は玄関ファサード

第 18 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル： 歌劇「連隊の娘」(ドニゼッティ)

1 月 25 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

「オペラ女優」を自認するデセイの歌と演技、ハイ C^{ツェー} 18 連発?で大喝采のフローレス。この歌劇は初演当時パリの四つの劇場で上演されるほどの大成功を収めた軽快で楽しい作品。2 月は休み。3 月以降「ランメルモールのルチア」、「リゴレット」などを予定。

【時と場所】

19世紀半ば過ぎのオーストリア（作曲された1874年当時。ウィーン郊外温泉地、温泉保養地バート・イシュルなど）

あらすじ

【第1幕】新興の裕福な銀行家アイゼンシュタイン邸の一室

アイゼンシュタインは公務執行妨害のかどで刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしに、と友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。一方、小間使いアデーレも姉イーダから夜会に誘われていて、どうにかして出かけるため「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがるが、その間に昔憧れたテノール歌手アルフレートと情事を楽しもうと企んでいる。3人は表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデはさっそくアルフレートと楽しもうとしたとき刑務所長フランクが来て、人違いでアルフレートを収監してしまう。

【第2幕】ロシアの大貴族で退屈している遊び人オルロフスキー公爵邸の大広間

オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせするが、お互いフランスの貴族だと自己紹介し、しどろもどろのフランス語で意気投合する。ロザリンデのドレスを拝借したアデーレは、女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするも、口説き道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝6時の収監の時間になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第3幕】刑務所内

刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインは、収監されるために刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き、驚き怒るアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ"こうもりの復讐"だったと種明かし。茶番劇はにぎやかに幕となる。



出演者について

ブラシド・ドミンゴ(1941 -)

スペイン、マドリード生まれ、サルスエラ（スペインのオペラ）歌手の両親が経営する楽団と共にメキシコに移住、子役として舞台に立つ。メキシコ国立音楽院でピアノと指揮を学び声楽の才能を見出される。メキシコ国立歌劇場デビュー後、世界的な名声を確立。1990年からは歴史的な「三大テノール」の一人として一世を風靡。オペラ歌手として現在 144 ものレパートリーに加え、指揮者、歌劇場芸術監督としても活躍中。



ドミンゴ、パヴァロッティ、カレラス

キリ・テ・カナワ(1944 -)

ニュージーランド生まれ。ヨーロッパ人とマオリ族の血を引き、生まれて間もなくマオリ族のテ・カナワ夫妻の養女となる。世界の主要歌劇場で歌い、1981年チャールズ王子とダイアナの結婚式で歌ったヘンデルのアリアは世界の 600 万人が視聴。翌年男性のナイトに相当する大英帝国称号デームを授与される。「包み込むような温かな響き」が特徴。



キリ・テ・カナワ

ヘルマン・プライ(1929 - 1998)

ドイツ、ベルリン生まれ。世界の一流歌劇場、音楽祭でバリトン歌手として活躍。オペレッタなどテレビに出演、明るいキャラクターで親しまれ非常な人気を博した。歴史的な大歌手のフィッシャー・ディスカウに続く歌手としてシューベルトをはじめとするドイツ歌曲は極めて高く評価され多くの録音を残した。オーストリア最西端の小さな町に、世界最高峰のシューベルト音楽祭「シューベルティアデー」を創設したことでも知られている。



ヘルマン・プライ

参考

「こうもり」の登場人物と 19 世紀後半の時代

アイゼンシュタインはドイツ語で「鉄の石」。「普墮戦争」(1866年)でオーストリア帝国を破ったプロシアの鉄血宰相ビスマルクを連想。**ファルケ**はドイツ語で鷹。落日のハプスブルグ家紋章の双頭の鷲を連想。プロシヤに大敗したオーストリアは帝国内諸民族「妥協」のオーストリア=ハンガリー二重帝国を成立(1867年)させる。**ロザリンデ**はウィーンワルツを歌い、ハンガリー貴婦人に扮してチャールダシュを歌う。これに対して小間使い**アデーレ**は(自治のほとんど認められなかったチェコの)ポルカを歌い、女優に扮してワルツを歌う。**オルロフスキー公爵**のロシアはバルカン半島を巡ってオーストリアと対立中。

なお、「こうもり」のもともとの原作はドイツの喜劇。オッフェンバックの喜歌劇を手掛けたメイヤック等がパリを舞台にしたヴォードヴィルに仕立て、シュトラウスの協力者ジュネー等がこれをドイツ語に翻案して舞台をウィーンに移した。1874年初演当時のウィーンは「世紀末ウィーン」と呼ばれる芸術・文化面の絶頂期。前年の岩倉使節団も見学したウィーン万博は、開幕直後に経済恐慌に見舞われた。

「こうもり」の独唱曲「クープレ」について

オペラの独唱曲は通常「アリア」であるが、「こうもり」ではほとんど「クープレ」。音楽用語「クープレ」は「ロンド形式」のなかで使われるが、「こうもり」の「クープレ」は英語の「カップル」と同じ語源で、歌詞が二行連句(対句)の意味。歌詞の行ごと、または一行おきに脚韻を踏む。第2幕でオルロフスキーの歌う奇妙な旋律のクープレ「**僕はお客を招くのが好きで**」の最初の4行を原詩と訳で示す。

Ich lade gern mir Gäste ein,(アイン)
man lebt bei mir recht fein,(ファイン)
man unterhält sich wie man mag,(マーク)
oft bis zum hellen Tag.(ターク)

私は、客を好んで招待する。
私と共に過ごすのはとても素晴らしい。
人々は望みどおりに談笑する
しばしば明るくなるまで。

小平・市民オペラ協会のページから一部引用

上記の他、アデーレが第2幕で歌うクープレ「**公爵様、あなたほどのお方なら**」、同じく第3幕で歌うクープレ「**田舎娘に扮するときは**」はともにコロラトゥーラ技法をちりばめた名曲である。